RITSUMEIKAN

ISSN 1345-3343

Library Navigator*

ライブラリーナビゲーター

Special Feature 1

「本」×「キャリアデザイン」座談会

Special Feature 2

2010年度「進路・就職コーナー」館別貸出回数 TOP10

CONTENTS

P.2 大学生のうちに読んでおいてほしい本
P.3 図書館から学生の皆さんへのメッセージ
P.8 [特集1]「本」×「キャリアデザイン」座談会
P.13 [特集2] 2010年度「進路・就職コーナー」館別貸出回数 TOP10
P.15 Information
電子書籍(e-Book)は使い勝手の「いいBook?」
「スウェーデンカロリンスカ研究所」からの科学写真パネル33点をBKCメディアセンターに展示
大学図書館イメージキャラクター「よむりす」デビュー!

立命館大学
図書館だより
2011.11
112

大学生のうちに読んでおいてほしい本

vol.9 **和田 晴吾** 先生（文学部日本史学専攻教授・図書館長）

ご挨拶
読書で人生を楽しく―

猛暑が過ぎ、朝夕、秋の気配が漂いはじめましたが、皆さん、夏休みはいかがでしたか。東北の地震・津波・原発事故や紀伊半島の台風・豪雨・山崩れと、自然や人為の大災害が相次ぎ、いつもとは少し違ったものになったかもしれません。この挨拶文が皆さんの手元に届く頃には、少しは社会も落ちつき、被災者の方々はじめ、みんなが安らいだ気分で年末を迎えることができるようになっていれば、と願わずにはおれません。

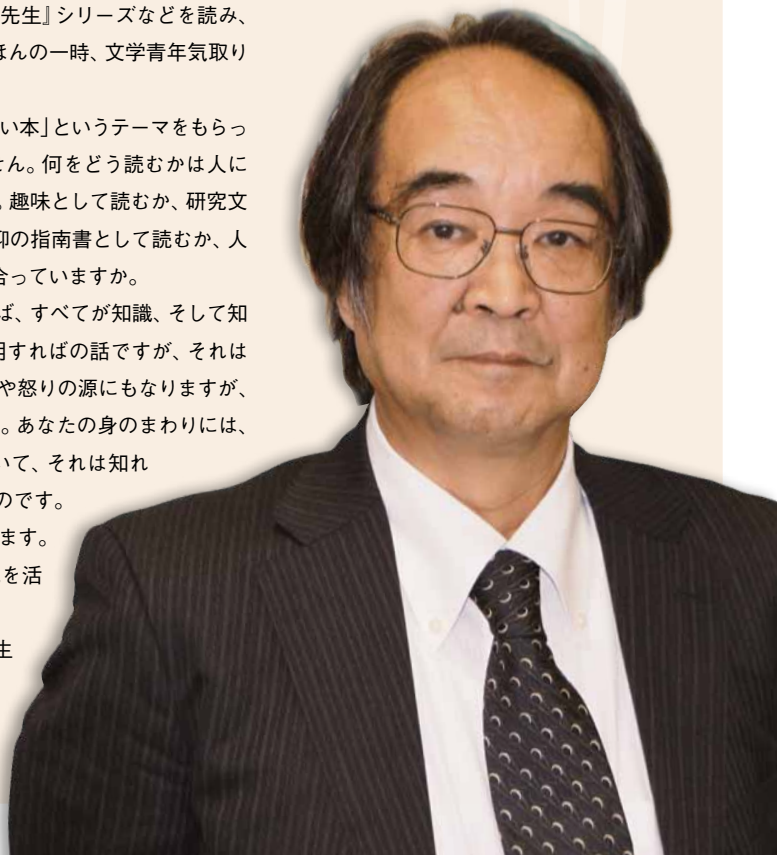
さて、私はこの４月に図書館長に就任しました。文学部の日本史学専攻で考古学を担当しています。専門は弥生・古墳時代史の研究で、日本列島に初めて本格的な水稲農耕社会が定着してから、飛鳥時代に律令にもとづく古代国家が形成されるまでの長い歴史過程を、何とか考古学的な方法で解明したいと望んでいます。考古学は「もの」から歴史を考える研究分野ですので、「文字」に溢れた図書館で迷ってしまわないように、精いっぱい頑張りたいと思っています。

子どもの頃は奈良の山野を駆けまわり、雑魚捕りと木登りには自信がありましたが、本は、マンガですらほとんど読みませんでした。中学時代に、今でも親交のある先生から諭されて『シートン動物記』や『ドリトル先生』シリーズなどを読み、それが本との最初の出会いになりました。後は乱読。ほんの一時、文学青年気取りの時もありました。

ところで、ここでは「学生のうちに読んでおいてほしい本」というテーマをもらっていたのですが、特定の本を指摘しようとは思いません。何をどう読むかは人によって違いますし、価値観も多様化しているからです。趣味として読むか、研究文献として読むか、技術のハウツー物として読むか、信仰の指南書として読むか、人生を考えるために読むか…。あなたは本とどう向かい合っていますか。

いずれにしても、五感で獲得した情報は、意識すれば、すべてが知識、そして知恵になります。特に読むものはそうです。そして、活用すればの話ですが、それは喜びや楽しみや想像力の源になります。時には悲しみや怒りの源にもなりますが、それを乗りこえる力も知識や知恵から得られるのです。あなたの身のまわりには、いつでもあなたのものにできる情報が充ちあふれていて、それは知れば知るほどおもしろい、ということを伝えたいと思うのです。路傍の草や木も鳥も石も名前を知れば楽しい友になります。そのためには、まず始めることです。そして得た知識を活用し、自分で考え楽しむことです。

自分の生きている時代を、場所を、十分知って、人生を満喫し、自分の可能性を追求してください。せっかく生きているのですから。



図書館から
学生の皆さんへのメッセージ

～立命館大学図書館は、皆さんの学びを応援します～

2011年４月、衣笠キャンパス図書館内に「学生どうし（ぴあ：Peer）による主体的で創造的な新しい学びのスタイル」のコンセプトのもと、ラーニング・コモンズとしての機能を兼ね備えた「ピア・ラーニングルーム（呼称：ぴあら）」が開設されました。ぴあらは、従来の図書館のイメージである「静かに学習をする」ということだけではなく、多くの仲間とともに議論し学び合い、新しい学びを創造していく場です。ぴあらの使い方の可能性は無限大ですが、どんな使い方ができるのか、設備と利用方法の一部をご紹介いたします。

❶『ぴあらでできること』

「グループワーク」エリア

グループ学習用大型ディスプレイ付パソコンや可搬型プロジェクターが設置されており、グループ学習やアクティブラーニングを実践する空間です。
仲間と協力しながら、時には議論をしながら学習を進めていくことができます。

「プレゼンテーションルーム」

聞く側（聴衆）の反応を見ながら、プレゼンテーションの練習が行える空間です。固定式の大型スクリーンとプロジェクター、発表者用の演台、そして８組の机・椅子が設置されており、本格的なプレゼンテーションの練習を行うことができます。

「IT・情報検索サポート」カウンター

学生スタッフから、ノートパソコンの貸出や情報検索サポート、ぴあら内に設置している各種機材の利用サポート等を受けることができます。
また学生ライブラリースタッフやRAINBOW STAFFが常駐しており、以下のようなサポートを行うことができます。

□ぴあらに設置している機器を使ってみたいけど、使い方がよくわからない
□どうやって検索したら、目的の資料を探すことができるのか
□図書や雑誌、データベースなど多くのツールを使って情報検索がしたい

他にもわからないことがあれば、気軽に相談してください。

「パソコン」エリア

情報検索や簡単なメールチェック用のパソコンです。
メールをチェックするだけ、図書館の資料を検索するだけというときには、とても便利です。

その他

プロジェクターで画像を映しながら書き込むことができるホワイトボードスクリーンや、書き込んだ用紙を切り離して持ち帰ることができるフリップチャートなどもあり、様々な学習を支援するツールを備えています。

最後に…

今回紹介した利用方法は、ほんの一部に過ぎません。
自分達なりの利用方法を見つけて、仲間とともに学ぶ楽しさや、新しい学びをぴあらで見つけてみてください。

meSSage

❷「ぴあら」インタビュー

利用者の声 1

今、英語の授業で紹介された英語の動画サイトをここで見ていました。

自宅にパソコンが1台しかなく家族共用なので、普段から大学でパソコンをよく使っています。

「ぴあら」では話をしてもいいですし、ふたつきの飲み物もOKで、空間的にも居心地もいいので、よく使っています。

以前もここにあったマルティメディアルームを使っていましたが、結構狭く、資料も置けない状況から比べても、ゆったりとして、必要な資料を広げながらの作業もできて快適です。

ここ「ぴあら」では、プレゼンテーション等の準備で大型モニターを使っている他の学生の姿などよく見かけますが、すごいなぁと思います。自分もそういう場面がくればぜひ使いたいと思っています。

「ぴあら」ができて、パソコンを使いながら資料を使うことが増えた気がします。欲を言えば、この「ぴあら」と閲覧室との出入口がもっと広かったり、奥にあるレファレンスルームへの出入りが自由であったらもっといいと感じています。

まだ、「ぴあら」を使ったことがない人もいるかと思いますが、この居心地のよい空間は使ったらはまると思います。

法学部 法学科 2回生
藤田 和也（ふじた かずや）

政策科学部 政策科学科 3回生　中原　岳（なかはら がく）
産業社会学部 現代社会学科 2回生　松井 美樹（まつい みき）
文学部 人文学科 2回生　竹田 梨絵（たけだ りえ）

この夏、授業の一環でデンマークやスウェーデン（特にベクショー市にあるリンネ大学）に29日間かけて留学に行って来たのですが、その事後レポートを作るために集まりました。留学先では座学による授業のほか、フィールドワークも多数実施され、福祉や環境などの面で先進性を持つ北欧の「今」を学んできました。

図書館の入り口から近く、予約もいらない。空き具合もすぐわかる。大型モニターもあるし、なにより「おしゃべりしていい」というのがとても助かります。また困ったことがあったら、すぐ近くのスタッフにも相談できるという安心感もあります。

実はこの「ぴあら」で大型モニターを使ったグループワークは初めてではく、留学に行く前の打合せもこの場所を使ってやりました。

この「ぴあら」では、一人またはグループで、いろんな学習をしている姿が見ることが出来ます。逆に自分たちの討議資料や姿が、他の人から見られていることにもなりますが、どうせ人に見せなくてはいけないものですから、気にもなりません。むしろ、すぐ隣でも、ホワイトボードとパソコンを使って、授業のような形態で学習している人たちがいますが、その姿を見て、「すごいなぁ」と思うし、刺激も受けています。

1回生のときは同じクラスでのグループワークが多かったので、学部のそれっぽい施設でグループ討議をしていたのですが、今回のように複数の学部をまたがったグループ討議では、図書館の「ぴあら」があって本当に助かっています。

試験期間はさすがに利用者が多く、座席数が少ないので困った時期もありましたが、普段は使いたいときに使える施設として、よく使っています。

もし、「ぴあら」を使ったことの無い人がいたら、もったいないと思います。出来たばっかりできれいと言うのもありますが、なにより会話が出来て、パソコン、大型モニター、キャップつきの飲み物もOKで、集まりやすい場所というのは魅力的です。

学生スタッフの声 2

法学部 法学科 2回生
和田 龍助（わだ りゅうのすけ）
ライブラリー・スタッフ

「ぴあら」ができるまで

授業で多く与えられる課題、特にグループワークに取り組むためには、ネットにつながったパソコンと議論が出来る場所が必要です。しかし、今までの衣笠キャンパスには、マルチメディアルームや学部のラウンジはあったとはいえ、グループワークに適した環境がなかったと感じています。

「ぴあら」ができて

今回「ぴあら」によって、「ネットで調べる」「本を探す」「議論をする」という場ができ、図書館に対するイメージも変わったと思います。また、図書館でパソコン使うことが一般化し、「ネット＋本」という調べものの形態が定着したように感じます。

私たちライブラリー・スタッフも利用者と接点を持つ機会が増えたので、今まで以上にやる気が出ていますし、自分のコミュニケーション能力もアップしたと感じています。

「ぴあら」での学生の様子

「ぴあら」での利用者を見ているとリアルタイムで学生同士のコミュニケーションが進んでいるのがわかりますし、プレゼンの練習などを通じて、学生のスキルアップにつながるだけでなく、学習している姿を見た利用者が「こんな使い方が出来るんだ。こんな学びの方法があるんだ」と刺激しあい、学生同士で互いに学びを広げ、高めることが出来ていると思います。学生同士の「学びがつながる場」として「ぴあら」があると感じています。

今後に期待すること

より多くの学生に「ぴあら」を知ってもらい、実際に使ってみてほしいです。将来的に「ぴあら」をもっと図書館の中で広げられれば、もっと多くの学生が使ってもらえると思います。また、ライブラリースタッフとして、ぴあらの活用法を率先して広められればいいなと思います。

法学部 法学科 4回生
堂馬 瑞希（どうま みずき）
レインボースタッフ

こんにちは、図書館ピア・ラーニングルーム（以下、ぴあら）はもう利用されましたか。ぴあらはこれまでの図書館マルティメディアルーム（以下、MMR）や他のMMRとは違い、グループ学習が行いやすい環境になっています。もちろん、個人での学習も十分できますし、図書館の中にありながらラウンジのような開放感や自由性も持ちあわせています。

開室当初はまだ利用者様だけでなく、私たちスタッフも不慣れなところがあり、ぴあらの大きな理念である「創造的な学び」がどれほど実現していけるのか不安でした。しかし、今では多くの皆様に利用していただいており、ディスカッションエリアにある大画面やホワイトボードは、グループディスカッションによく活用されています。

また、新しい取り組みで、ノートパソコンの貸出も行なっています。図書館内ではどこでも利用ができるので、順番待ちをしていただかなければならないときもあるほど、毎日たくさんの方に利用していただいています。

ぴあらではノートパソコンの貸出もあるため、利用者の皆様と実際にお話することが増えました。赤いジャンパーを着た「とっつきにくそうな人」ではなく、「話し掛けやすい身近なスタッフ」になれるように、毎日、明るく頑張っていきたいと思います。

まだ、開室して1年もたっていないため、これからも皆様の利用実態にあわせてぴあらの環境も少しずつ変化していくと思います。私たちスタッフも変化に随時対応し、皆様に快適な学習環境と、ぴあらの理念である「創造的な学び」を実現できるように努めて行きたいと思いますので、どんどんぴあらを活用していってくださいね！そして、これからもよろしくお願いします！

❷「ぴあら」インタビュー

3 教員の声

秋田 典昭先生（教育開発推進機構 教授）

「ぴあら」での新たな学び―出会う勇気を―

イタリアの童話作家、ジャンニ・ロダーリ（Gianni Rodari）は、“LA GRAMMATICA DELLA FANTASIA”（邦訳：窪田富男『ファンタジーの文法』）の中で、「物語は≪ファンタジーの二項式≫によってのみ誕生しうる」と述べ、創造的なものが誕生する秘密を次のように説明している。

≪馬ー犬≫は、真に≪ファンタジーの二項式≫にはならない。なぜなら、それは動物学上の同一種内の単純な連想であり、二匹の共通点を思い浮かべてもつまらない働きしかしない上に、なんらの興奮も引き起こさない。創造的であるためには、二つの言葉の間に、ある距離が必要であるとして、「二項式」の例に≪犬ーたんす≫を挙げている。この言葉からは、［たんすを背負った犬］［犬のたんす］［たんすの上にいる犬］［たんすの中にいる犬］などの発想が思い付かれ、それぞれファンタスティックな場面の骨組みを与えてくれる。

これまで、等質性を求め群れる傾向が強い日本人には、模倣や応用はあって、独創性はないかのように決めつけられてきた。しかし、独創をそのように難しく考える必要はないのではないか。独創性は、相容れない強靭な個性が激しく対立し、ぶつかりあう中で、初めて誕生するものだけではなく、「異なる個性がそこに存在することを許される」ことによっても生まれてくるのではないか。

従来の日本の図書館は、「私語厳禁」という言葉に象徴されるように、他と屹立した絶対的な個性が隔絶した空間の中に閉じこもりひたすら孤独な作業に携わることだけが許される世界であった。そこでは、多数の異なる個性が同時的に存在し、相互に関わりあうことを許す空間としての構造性は持っていなかった。

「ぴあら」は、そうしたこれまでの図書館空間の思考に風穴を開ける実験的な場として実現した。個の自覚は他と言葉を交わすことにより生まれる。「私語厳禁」から解放された伸びやかな空間の中で、見ず知らずの者が≪ファンタジーの二項式≫の一つとしてのかけがえのない出会いを果たす勇気を持つことによりクリエイティブなものが誕生するのである。

❸「ぴあら」を踏まえたBKCでの展開

2012年春、いよいよBKCの図書館に「ぴあら」が開設されます。
～図書館の学びの場は、静から動へ、よりアクティブに変身します～

2011年4月1日に衣笠図書館1階にピア・ラーニングルーム「ぴあら」がオープンしました。
1年遅れましたが、2012年春、いよいよBKCの二つの図書館メディセンター（1階：現新聞・雑誌閲覧室）、メディアライブラリー（アクロスウイング2階：現新聞・雑誌閲覧室）にもそれぞれ「ぴあら」を開設します!

学びのコミュニティ

従来の図書館は、個人学習を基本にした静かなイメージがありましたが、来春開設される「ぴあら」（ピア・ラーニング・ルームの略称）は、グループ学習やディスカッション、プレゼンテーションの練習ができる空間です。一般的に「ラーニング・コモンズ」（学びの共有地）ともいわれます。従来は、閉じた「グループ学習室」でしかできなかった議論しながらの学習が、これからは開放的な場所で堂々とできるのです。又、インターネットや図書を使って調査・分析し、その結果を発信するプロセスにも集団でオンタイムで参加することが可能になり、知的創造活動が共有できます。まさに「学びのコミュニティ」形成の場と言えます。

しかも「見える化」により、他のグループ学習の状況も意識しながら、互いに刺激しあうという相乗効果も期待されます。他学部学生の学習方法から学べることも、図書館の「ぴあら」だからこそできると言えるでしょう。学びを通して成長できる学生生活をここで十二分に展開してください。

同時に、インターネットと本を活用した調査やレポート作成、ディスカッションなどのためにパソコンや大型ディスプレイを設置し、プレゼン用のモニターなど用途に合わせて利用できる環境を整備します。机や椅子も可動式とし人数やシチュエーションに合わせた利用ができます。

学習支援機能

大学での学習が、今までの「教えられる学び」と決定的に違うのは、主体的に課題に取り組むという点です。自分で考え、調べ、読み、書き、伝える、この繰り返しと言えるでしょう。「ぴあら」では、皆さんの学びを応援する「学習支援機能」も提供します。例えば、ライティング支援やアカデミックアドバイジングなど、インストラクター（教員・職員）やチューター（院生・学生）が直接指導・助言し、学生の学習を応援することが考えられます。

以上のように図書館では学習支援機能を強化するに当り、従来の「静かゾーン」と「ぴあら」のような「がやがやゾーン」を区別（ゾーニング）し、図書館全体の一層の活用を期待するものです。そこは、学生同士による主体的で創造的な新しい学びのスタイルが生まれる場所であり、仲間とともに学ぶ楽しさを「ぴあら」で大いに体感してください。

一冊の『本』との出会いがあなたの人生観を変える？

「本」×「キャリアデザイン」座談会

写真と参加者情報　❶所属　❷氏名　❸内定先　❹お勧め本

高倉 秀行先生
（理工学部教授 図書館副館長）

就職活動は学生の皆さんにとって、人生の大きな転機です。夢や目標を叶えるためにはどのように大学生活を過ごすかがとても大切です。将来社会で活躍するために、人として成長していくためには「本」との出会いも大切です。また、「本」が自分の将来を決める上で重要な役割を果たしてくれることもあるでしょう。今回は衣笠・BKC所属の4名のJA[*1]が、自身の大学生活を振り返りながら、転機となった様々な出会いについて語っています。座談会の内容が、在学生の皆さんにとって将来を深く考える、そして、「本」の持つ魅力に気づくきっかけになることを願っています。

＊1 ジュニア・アドバイザー：キャリアオフィス所属の就職内定者。後輩の就職サポートを行っている。

1 低回生時のキャリアデザインについて ―将来の希望と不安

高倉　早速ですが、皆さんが将来のキャリアについて、低回生の頃どのように考えていたのか教えてください。

栗田　低回生の頃私は趣味を仕事にしたいと思っていました。
高校までやっていたトランペットの道に進むか、化粧品や美容について興味があったので、そういった趣味を仕事にしたいと安易に考えていました。一方で、そんな考えで仕事に就いて将来ずっと続けられるのかという不安と、専門性が高い仕事なので、卒業後新たに専門学校に通わなくてはいけないのではと思い、迷っていました。

木村　私は研究室で低侵襲医療（テイシンシュウイリョウ）という、あまり身体に傷をつけずに手術をする医療を工学的なアプローチでやることに興味があり、立命館大学に入学しました。低回生時は、そういったことを研究室でやりたいというのと同時に、カプセル内視鏡のような低侵襲の医療機器が作れる会社に行きたいと、漠然と考えていました。

高倉　そのように考えていた中で、卒業せずに大学院へ進学したのはなぜですか？

木村　もともとそういう研究がしたくて入学したのですが、3回生の後期に研究室での活動というものがだんだん見えてきました。自分のイメージしていたことと合致してきて、すごく楽しそうだと思えました。研究が実際に始まったのが4回生の初めからだったので、卒業までの一年ではちょっと物足りないと思い大学院に進みました。

山田　私は法務教官という少年院の先生のような仕事につきたいという思いをもって、法学部に入学しました。実際に入ってみて勉強が難しく、壁にぶちあたりました。それでも、県庁の職員になって児童福祉士になれば児童相談所でも働ける道があったので、公務員を第一に考えつつ、民間も視野に入れながら過ごしていました。

山口　キャリアを考える一つの境目が、大学受験で何学部を選ぶかという時だと思いますが、私の場合は中学・高校と立命館で中学の時しか受験を経験していません。
高校時代は理系で、高3の9月時点では、立命館大学の理工

学部出身だった父と同じ道に進もうと思っていました。

一方で、子供の頃からよく連れて行ってもらっていた海外で仕事をしたいという思いもありました。理系に進んでも海外で仕事ができるということは父からも聞きいていましたが、やるなら専門的にやりたいという思いで文転し国際関係学部に進学しました。

低回生の頃は国際といっても具体的に何がしたいのか本当にアイデアがなくて、大学4年間の長期休暇中には絶対に海外にいようという思いしかなかったです。

2 乗り越えてきた壁 ーそれぞれの分岐点

高倉　皆さん、今は非常に晴れやかな表情で当時の状況を振り返ってくれていますが、実際には様々な葛藤や悩みもあったと思います。皆さんは、就活を進めていく上でぶち当たった壁や葛藤をいかにして乗り越えてきたのでしょうか？

山田　当初目指していた法務教官と児童福祉士は、子供に携わるという点が共通していて、そこが私のこだわりでした。それを意識して就職活動をしていたときには、どうしても「違う」という思いが先行していました。その結果、説明会に行っても「余り興味がわかない」という感じで日々葛藤していました。

転機になったのは、ある企業の説明会で内定者の方とお話しする機会をいただいた時です。その方は、「最初はスクールカウンセラーになりたいと思っていたが勉強が難しくて追いつかず、この会社の説明会に参加した時に、困った人を助けるという意味ならこの企業でもできるという事に気付いたから私はこの企業に行こうと思った」とお話されました。それを聞いた時、自分が硬く考えているだけで、人と深く関われる仕事に就きたい、困っている人を助けたい、という自分がやりたいことは他の民間企業でも実現できると思えるようになりました。

山口　先程もお話しましたが、私は高校の時に理系から文系に変わったというのがとても大きな転機です。
もう一度文系から理系に戻るというには難しいので、ある意味取り返しのつかないことをしたという葛藤がありました。
その時父親に言われた「理系が世の中の仕組みを作って、文系がそれを実践する」という一言がすごく頭に残っていて、文系でも世の中の仕組みを作れることを証明したいという想いが心の底にありました。

しかし、いざ就職活動を始めてみると、環境ビジネスや、環境関連で仕事がしたいと思い、自然に見ている会社も環境関連で、父親と同じ道を目指していることにすごく悩みました。興味があることを自分自身で認識できず、2月3月までは就職活動の選択肢の中にはあえて加えませんでした。

そんなときに『質問力』という本に出会いました。「なんでやった、なぜこうだ、だからこうだ」と要因や因果関係を論理的に自分自身に質問することで、その時にはじめて「環境というのが自分のベースになっていて、自分が将来やっていきたいことだ」と思えました。それがきっかけで壁を乗り越えられたと思っています。

栗田　私はまず、トランペットを続けるかで悩んでいました。中学生のときに、日本代表でアメリカに演奏しに行ったこともあります。周りの友人も音大に行って、プロの道に進んでいく人がほとんどでした。大学に入った時にトランペットをやめたのですが、ずっと心残りで、プロになっていく友人をみていると、やっぱりどこかで続けたいという想いが出てきて、就活をするか音大に行くかすごく迷っていました。

その時、両親に「就職活動は自分も成長できるのでやって損はないし、トランペットはいつからでも続けることはできるから、今目の前にある就職活動をしなさい」と言われて就活を始めた時に、『絶対内定2012』という本に出会いました。

就活本はあまり読まないほうがいいと言われるのですが、本は使いようだと思っています。「そういう考えや価値観もあるんだな」と自分に足りない部分だけを補うことができると考えています。実際に、トランペットをなぜ大学でやめたのかなということをとても考えさせてくれました。

トランペットをしていた時は、どうしても人前にでることに苦手意識がある自分がいて、その自分がすごく嫌でした。それを変えたいと思ってトランペットをやめて、大学では人前に立つミスコンテストや、お客様と接するアルバイト等で、話すことに対する苦手意識を改善し、自分を成長させてきました。だから、またトランペットに戻ると、自分の成長が止まってしまうのではと思いました。
本を読むことを通じて、自分の将来の夢って何だろうと改めて考えました。自分は人に影響を与えられる人間になりたいと強く

❶理工学研究科 創造理工学専攻 M2
❷木村 拓也さん
❸パナソニック（株）内定
❹『手紙屋〜僕の就職活動を変えた十通の手紙〜』
喜多川 泰著（ディスカヴァー・トゥエンティワン）2007

❶経済学部 経済学科 4回生
❷栗田 真由美さん
❸三井住友銀行 内定
❹『絶対内定 2012』杉村 太郎著（ダイヤモンド社）2010

思っていたことが分かり、迷いが改善されたと思います。

木村　私自身はすごく楽しんで就活ができていたので、あまり壁だと思った出来事はなかったのですが、3.11の震災が自分の中では大きな転機となりました。というのも、私自身出身が仙台市なので、家族が被災して、被災地でどういうことで困っているか話を聞いた時に、「そういったことを解決したいな」とか「こういうものがあったらいいな」と思いました。そういったことを考えている時に、「やっぱり自分はエンジニアとしてやっていきたいのだな」と気付かされました。

困っていることを何とかして解決したいと色々とアイデアを考えてみた時に、「メーカーでエンジニアとして働いていこう」と地に足が着いた感覚がありました。そこが一番の転機だったと思います。

高倉　皆さん僕の中で忘れかけていたものを持っておられるので、僕もそういう時代があったのだなと改めて思いました。

齢を重ねていくとだんだん世の中の仕組みに流される場合も出てくるので、皆さんには改めて若さを感じました。しかし、自分の趣味ややりたいことを切り捨てられてきた方もいて、僕は自分の本当に好きなことを今でもやっているという感じで、幸せだなというのが実感です。

私の父親は板金加工をやっていた職人で、いつも家で「手伝いなさい」と言われて、嫌だなと思いながらやっていたのですが、技術屋というのは職人なんです。

その職人魂のようなものがずっと自分の中に染み付いていて、今でもそれをやっているんだなという気がします。

3 本の可能性

高倉　皆さんはこれから社会に出て、大いに活躍されていくことかと思いますが、既に就職活動を経験されて、最終面接も受けられたわけですが、面接では何を見られていたと思いますか？会社や業界によって、もちろん異なるわけですが、共通する部分もあると思います。それは、「教養」です。教養があれば、幅広い視点で物事を考え、様々な課題に誠実に対処してくことができます。いわゆる「人間力」と呼ばれるものですね。では、そのような力をどうやって高めていくかですが、いわゆる「ハウツー本」だけでは絶対に身につきません。就職活動を始めるにあたって、自己分析をしなさいとか、いろいろなことを言われると思いますが、急に自己分析したって出てこないですよね。僕は、若い時からいろいろな本を乱読することが一番大事だと思います。僕の家には文庫本は100冊以上あります。僕が大学時代を過ごした寮で1年間同室だったのは、博士後期課程の先輩だったのですが、その方は文庫本を何千冊と持っていました。本棚に並べられた本の存在感に圧倒され、すごいと思いました。

だから僕も無駄に読んだものがたくさんありますが、それが知らず知らずのうちに血となり肉となるのだと思います。
私が学生の頃には『赤と黒』やキルケゴールや『戦争と平和』なんかも読みましたね。

それから、太宰治の『人間失格』の中に強烈に印象に残っている部分があります。主人公が鉄棒をしていてわざと失敗するのですが、それを見た人が「わざわざ」と言うのです。そのシーンが断片的ではありますが強烈に残っています。そういうものが今の自分を創っていると思います。

皆さんはこれまで読んだ本の中で、自分の人生観を変えたり、考え方に大きな影響を与えたような、今も心に残っているフレーズや本はありますか？

木村　就活の話になりますが、『手紙屋』という本の中にあったフレーズが最終的に将来を決めるきっかけになりました。

就活生が手紙屋さんとやり取りをして、手紙屋さんが色々なエピソードを10通の中に込めていくという話なのですが、その中で会社を選ぶ基準を船に例えて、「社会に出て行くのは海に船で出て行くということで、今は船探しをしているところなのです」という話があります。「船が大きいか小さいかはあまり関係なくて、その船がどういう目的を持って港を出ようとしているのかというのが大事だ」と書いてあって、その「航海の目的が大事なんだ」というフレーズに私は大変影響を受けました。その時から、「会社の事業の目的を見ていこう」と視点が変わって、会社の目的に自分が共感できていれば、どんなことがあろうと今後やっていけるだろうと考えるに至りました。

❶国際関係学部 国際関係学科 4回生
❷山口 剛史さん
❸日揮株式会社 内定
❹『質問力』飯久保廣嗣著（日本経済新聞社）2003

❶法学部 法学科 4回生
❷山田 沙也加さん
❸（株）みずほフィナンシャルグループ 内定
❹『営業の大原則』中村 信二著（エイチエス社）2009

山口　2つあって、1つはずっと就活中読んでいた『不毛地帯』という本です。

主人公は軍人で長い間シベリアで抑留されていて、二度と軍人関係の仕事にはつきたくないと思い総合商社に就職するも、二度と関わらないと決めた軍人時代の人脈を使って出世していく話です。物語の中で、周りはどんどん出世競争から負けて落ちていきます。

著者の山崎さんの書き方としては、主人公は意識して周りを落としていくのではなく、周りに気をかけながらも上の地位に上っていき、最終的には社長になるというものです。

読み終わって思ったことは、やらないと決めたはずの事でも、本当は自分の心の中でチャレンジしたい思いがあって、実はそういった分野の方が自分には向いているのではないかということです。私のキャリア選択にもそれと同じような事を感じ共感しました。

もう1つは『質問力』という本にある「手段と目的を混同するな」というフレーズです。これは就活でよく言われる話ですが、例えば国際関係学部に入学する場合、受験は国際関係学部に入ることを目的として行いますが、本来はその先にある本当にやりたいことを考えて、その選択肢が理工学部でも、法学部でもなくて国際関係学部という手段です。同じように就活でも本当に自分がやりたいことが目的で、その手段として企業がある。そういった選び方が一番自然なのにも関わらず、そういう選び方ができないのは何故だろうという一節があります。そこがとても印象に残っていて、一番参考になりました。

栗田　『絶対内定2012』の中にある「仕事をしながら別の道で夢を追いかけていて、その過程で夢が達成した時に本当にあなたは嬉しいのか。社会に出て、ただ仕事をしながら別の道で夢を追いかけた時、それを達成しても本当に達成感を味わえるのか。やっぱり夢を追いかけながら仕事をして、それを達成して達成感を得られたほうが絶対に嬉しいでしょう」という文章が印象的でした。それがきっかけで、私は夢を追い続けられるフィールドで仕事をしたいと、発想の転換ができたので、当たり前の文章なのですが強く心に残っています。

山田　私は就活中いかにモチベーションを高く維持できるかが、一番大切だと思っていました。説明会に行って内定者の方や社員さんを見ていた時に、自信があるのをすごく感じました。また、友達が就職活動に大変意欲的で、こういう人たちが受かっていくのだろうと思い、そういう人がよく読んでいた、自分がポジティブになれる本を読むようにしていました。具体的には、書いてある内容は営業という感じではないのですが、『営業の大原則』とか、起業するつもりもないのに『年収1億円思考』といったものです。

読む本に共通していたのが、「考える前にまず動け」とか「考える前に実践してみる」、「引っ込み思案にならずに、まずは自分から動いてみる」といった、ポジティブなフレーズでした。そういう共通している部分を自分の面接に活かせるようにしていました。

就職活動中に本とどういう風に向き合っていたのかと改めて考えると、ポジティブさを学ぶためだったと思います。

高倉　なるほど、確かに考えるばっかりで全然行動しないというのは意味がないですね。何かしたくない部分を、どんどん自分で理屈づけしていって否定していって結局何もしないのはよくない。

単に考える前に動けって言うのではなく、考えてばっかりじゃ話にならないということですね。当然そこで失敗もあるけれども、それが次の成功に繋がれば、「失敗したっていい」ということだろうと思います。

4 在校生へのメッセージ

高倉　それでは最後に、後輩へのメッセージがあればお願いします。

木村　私自身が学生生活を送ってきて、「先に頭の中で考えて、行動しよう」というトップダウンの考え方と、「とりあえずやってみて、やっていく中で考えよう」というアプローチは両方とも大切だと思いました。それを臨機応変に使い分けることで有意義な学生生活を送れると思います。

私自身は先に目標を立てて、その為に必要なことをするという考え方をする性質なのですが、それで壁にぶち当たったことが結構あって、それで発想の転換をしてみて、今に至ってすごく良かったなと思っています。何か学生生活で壁にぶち当たった時に逆の発想をして、それをやってみるというのが大切な気がします。最近後輩達を見ていても頭の中で考えるタイプが多いので、そういう後輩に対して、まず何かをやってみて、その中で答えが見つかってくるよということをメッセージとして残したいと思います。

高倉　確かに演繹と帰納の両方で物事を考えられたほうがいいね。

栗田　色んな考えに触れてほしいと思います。同じ経済学でも様々な教授がいて、教授によって考え方が全然違っていて、「こういう考え方もあるんだ」「こういう解き方もあるんだ」と多様な価値観に触れることで、自分の意見が固まってきます。

本も同じテーマでも様々な本に触れることで、自分の選択や自分はこうしたいという考えが見えてきます。就職活動で大事なことは、2つの選択肢があった時に自分が何を大事にして選択をするかだと思うので、アルバイトでも勉強でも何でも、本当にいろいろなことに触れて自分を形成していってほしいと思います。

山口　アルバイトが忙しくて、サークルがあってという毎日だと、本当にやりたいことや目的をすぐ見失いがちです。それを改めて考えるのが就職活動の時期だと思います。ただ、自分が今まで目的をしっかり持ってやってきたかというと全然そうではなくて、後から気付くものだとも思います。

僕も振り返ると色んなことをやってきました。

ボランティアサークルで海外ボランティアに行ったり、バックパッカーや、留学をしたり、ゼミナール大会にでたりと、やりたいことを根こそぎやってきたイメージがあります。チャンスがあればあれこれやって、周りに迷惑もかけることもあります。その時は目的を見失うほど忙しくなっていたとしても、後から振り返ってみるときっと将来につながっていくと思うので、山田さんが言っていた『考える前に動け』は本当に同感です。

また、日本語の本だけでなくて、英語の本を読んでほしいです。和書と洋書はすごく違っています。会話でも日本人は質問をする時でも意図のわからない質問をすることが多いと思いますが、外国人は「私はこう思うけどあなたはどう?」という聞き方をしてくる。本でも、まず結論があって説明を述べていくので形式自体が違います。細かな一つの記事でも全然ディテールが違って、同じ話を日本語と英語で読むと受け取るイメージが全く違う。そういうこともあるので、英語力は必要ですが、海外の本をたくさん読むことで自分の知識を広げることができると思います。

山田　大学生活を振り返ってみて、大学生が一番自由な時間が多いので、まず動くことが大事だと思いました。

動くと出会いがいっぱいあるし、新しい価値観や自分が今まで持っていなかったものに出会える。

私自身オリターや短期留学と色々してきた中で、「出会い」というのが大切だと思いました。何かをやりたいという気持ちがあれば、動くきっかけになります。なんとなしに過ごすのではなくて、時間を有意義に過ごすために、やりたいことや目標をもって動いてほしいと思います。

その中で本も、新しい価値観に出会うきっかけになると思うので、本を読む時間を大切にしてほしいと思います。

高倉　皆さんの話を聞いていると本当に若さを感じますね。この柔らかさやチャレンジ精神を、自分の中にも起こさないといかんなと思いました。

目的と手段という話が今日ありましたが、人生の目的は何かと考えると、やっぱり人と人との付き合いなのでしょうね。もちろん一人で生きていけるわけじゃないから、色んな人、色んな存在がある中で、会社に就職するというのも、もちろん生きていくために働くわけですが、やっぱりそれだけじゃつまらないですよね。

どういう人と出会い、どう過ごしていくかが一番大きな目的なんでしょうね。

その中で「本とは何か?」と考えた時、今日の話を聞いていて、本というのはある意味手段なのかなと。本は変わらない。人と人とはお互い変わっていくのですが、本は何回読んでも変わらない。受け取り手としては色んなものをそこから読み取るわけです。

自分が経験できない別の人生を与えてくれる、それを通してもっと広い人間的な付き合いを作っていくのが本なのだとこの年になると思いますね。

若い方はまだ人生経験も短いわけですから、どう自分の中身を広げていくかという意味で本をたくさん読むというのは非常に大事だということを実感し、私自身が啓蒙された気が致します。今日はどうもありがとうございました。

一同　ありがとうございました!

2010年度「進路・就職コーナー」館別貸出回数 TOP10

衣笠図書館・メディアライブラリー・メディアセンターには、「立命館大学父母教育後援会」のご支援により、「進路・就職コーナー」を設置しています。進路・就職や資格取得を支援する図書は勿論のこと、皆さん自身のキャリア形成、働き方・生き方を考えてもらうきっかけとなる図書も提供しています。112号では、「進路・就職コーナー」の利用について、2010年度（2010年4月1日～2011年3月31日）に学生の皆さんがどのような図書を借りたのかを館別にランキング形式で紹介します。

「進路・就職コーナー」の場所

- **衣笠図書館**
  1階 レファレンスカウンターの左隣の書架
- **BKCメディアライブラリー**
  2階 入館ゲートの左手の書架
- **BKCメディアセンター**
  1階 サービスカウンターの向かい側の書架

衣笠図書館

順位	貸出回数	『タイトル＜シリーズ名＞』・著者名・（出版社）・出版年
1	511	『人文科学：地方上級・国家Ⅱ種・国税専門官対応 ＜公務員Ｖ問題集＞』 TAC公務員講座編（TAC）2006-
2	504	『会社図鑑！：業界別カイシャ・ミシュラン』 オバタカズユキ・石原壮一郎文（ダイヤモンド社）1995-
3	485	『マスコミ就職読本』 月刊『創』編集部編（創出版）1993-
4	425	『8割が落とされる「Webテスト」完全突破法！』 SPIノートの会編著（洋泉社）2004-
5	336	『民法：地方上級・国家Ⅱ種・国税専門官 ＜公務員Ｖテキスト＞』 TAC公務員講座編（TAC株式会社出版事業部）2007-
6	334	『郷原豊茂の民法まるごと講義生中継：地方上級・国家Ⅱ種・国税専門官対応』 郷原豊茂著（TAC株式会社出版事業部）2007-
7	319	『図解革命！業界地図「最新」ダイジェスト』 一橋総合研究所監修（高橋書店）2003-
8	297	『人文科学 ＜公務員試験ウォーク問過去問Quick Master＞』 東京リーガルマインドLEC総合研究所公務員試験部編著（東京リーガルマインド）2009-
9	294	『会社四季報業界地図』 東洋経済新報社編（東洋経済新報社）2006-
10	280	『数的処理：地方上級・国家Ⅱ種・国税専門官対応 ＜公務員Ｖ問題集＞』 TAC公務員講座編（TAC）2006-

メディアセンター

順位	貸出回数	『タイトル＜シリーズ名＞』・著者名・（出版社）・出版年
1	201	『会社図鑑！：業界別カイシャ・ミシュラン』 オバタカズユキ・石原壮一郎文（ダイヤモンド社）1995-
2	196	『8割が落とされる「Webテスト」完全突破法！』 SPIノートの会編著（洋泉社）2004-
3	114	『図解革命！業界地図「最新」ダイジェスト』 一橋総合研究所監修（高橋書店）2003-
4	105	『これが本当のSPI2だ！：問題の再現度・情報の制度・説明の分かりやすさNo1』 SPIノートの会・津田秀樹編著（洋泉社）2005-
5	104	『マクロ経済学 改訂版 ＜公務員試験新スーパー過去問ゼミ2＞』 資格試験研究会編（実務教育出版）2008-
6	95	『やさしいエントリーシート ＜大学生の就職＞』 資格試験問題研究会編（一ツ橋書店）2008-
7	94	『採用される履歴書エントリーシート実例集：勝つ！就職 ＜就職合格虎の巻＞』 本田勝裕・櫻井照士著（主婦の友社）2007-
8	92	『史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』 オフィス海著（ナツメ社）2009-
9	89	『公務員試験受かる勉強法落ちる勉強法：これが「最速受験術」だ！』 「合格への道」研究会編著（洋泉社）2007-
10	85	『就職活動無理せず書けるエントリーシート・自己PR・志望動機 ＜就職の王道BOOks＞』 才木弓加編著（実務教育出版）2007-
	85	『史上最強の自己分析驚異の超実践法』 採用情報研究会著（ナツメ社）2006-
	85	『IT・ソフトウェア＝IT・software ＜最新データでよむ産業と会社研究シリーズ＞』 那野比古監修（産学社）2004-

メディアライブラリー

順位	貸出回数	『タイトル＜シリーズ名＞』・著者名・（出版社）・出版年
1	616	『会社図鑑！：業界別カイシャ・ミシュラン』 オバタカズユキ・石原壮一郎文（ダイヤモンド社）1995-
2	361	『8割が落とされる「Webテスト」完全突破法！』 SPIノートの会編著（洋泉社）2004-
3	291	『図解革命！業界地図「最新」ダイジェスト』 一橋総合研究所監修（高橋書店）2003-
4	275	『内定者はこう書いた！エントリーシート・履歴書・志望動機・自己PR：完全版』 坂本直文著（高橋書店）2004-
5	268	『坂本直文が教える人気企業エントリーシート実例集』 坂本直文著（高橋書店）2008-
6	258	『内定者はこう選んだ！業界選び・仕事選び・自己分析・自己PR：完全版』 坂本直文著（高橋書店）2006-
7	242	『エントリーシート・履歴書 ＜絶対内定＞』 杉村太郎・坂本章紀著（ダイヤモンド社）2009-
8	237	『銀行＝Bank ＜最新データで読む産業と会社研究シリーズ＞』 遠山順一監修（二期出版）1997-
9	229	『日経業界地図：主要企業の実力と次の動きを読む』 日本経済新聞社編（日本経済新聞社）2004-
10	226	『自己分析とキャリアデザインの描き方 ＜絶対内定＞』 杉村太郎著（ダイヤモンド社）2005-

※出版年はシリーズ初版に準じています。実際の所蔵巻号はRUNNNERSでご確認下さい。

3館共通で購入している種類

- 「自己分析」、「SPI」、「業界分析」、「面接対策」等、就職活動支援
- 「公務員試験」支援

衣笠図書館

「司法試験」、「司法書士」、「行政書士」、「保育士」、「心理カウンセラー」等

メディアセンター

「情報処理技術者試験」、「CAD利用技術者」、「電気主任技術者」、「管理栄養士」等

メディアライブラリー

「経済学検定試験」、「管理業務主任者」、「経営学検定試験」、「国際会計検定」等

この他にも皆さんの進路・就職をサポートする図書をたくさん揃えています。ぜひ積極的に各館「進路・就職コーナー」をご利用ください。

電子書籍（e-Book）は使い勝手の「いいBook？」

巷では電子書籍（e-Book）の話題をよく目にします。その背景にはスマートフォンやタブレット等のモバイルツールの普及や人気書籍の電子化等コンテンツの充実で普段の生活においても電子書籍に触れる機会も増えてきていることがあげられます。

電子書籍の便利なところは何と言っても、多くの書籍をモバイルツールにコンパクトに収納できるとともに、読書上疑問に思ったことや言葉などを簡単にネット検索できたりその本を介して多くの友人とコミュニケーションをしたりと今までの紙の書籍とは違う使い勝手のよさが最大の特徴です。

図書館では2006年から電子書籍の導入（約3,000タイトル）を進めていましたが、そのほとんどが英語の書籍でした。2012年度から日本語の書籍（みすず書房、岩波書店など）約300タイトル購入し利用できるようになりました。

また、電子書籍を提供しているプラットフォームがNetLibraryからEBSCOhostへ変わり、名称もeBook Collection（EBSCOhost）に変わりました。なお、「印刷」でPDFに変換する（最大60ページまで）機能もありますので、自分のライフスタイルに合わせた使い方が可能です。まずは図書館ホームページで「netlibrary」と検索してみてください。電子書籍（e-Book）が使い勝手の「いいBook?」かどうか一度試しあれ。

※2012年4月には新しい図書館システムが稼働します。検索の仕組みも変わります。あらためてご案内します。

「スウェーデンカロリンスカ研究所」からの科学写真パネル33点をBKCメディアセンターに展示

ノーベル医学生理学賞の選考委員会が設置されていることでも有名なスウェーデンのカロリンスカ研究所より提供された、科学写真パネル33点をびわこ・くさつキャンパス（BKC）メディアセンター「ライフサイエンス・アカデミックラウンジ」にて展示しています。

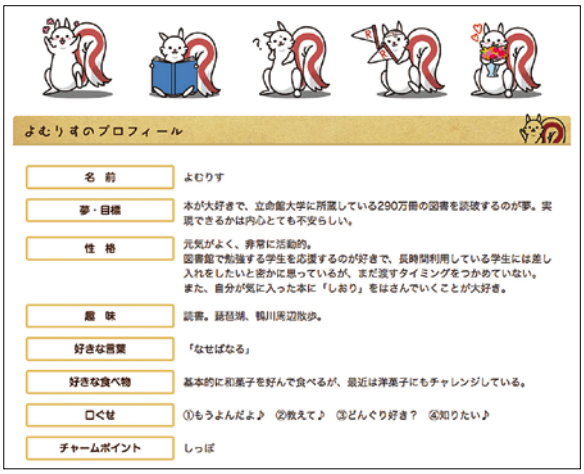
本学は2008年に生命科学部・薬学部を設置し、ライフサイエンス分野の将来を担う人材を育成しています。ライフサイエンス・アカデミックラウンジは生命科学部・薬学部が創設した「ライフサイエンス人材基金」により、2010年1月に開設されました。

写真パネルの提供は、同学部の活動の一環で、スウェーデンの大学・研究機関を訪問し、ライフサイエンス分野の教育・研究活動について調査をしたことをきっかけに、本学と研究所との親交を深める証としてスウェーデン大使館の支援のもと実現したものです。

写真パネルは昨年行われたカロリンスカ研究所の創立200周年記念イベント時に制作されたもので、ライフサイエンスの世界的に著名な写真家であるレナート・ニルソン氏の作品です。グローバルに活躍する学生にとって、生命への飽くなき知的好奇心、インスピレーションを誘起する貴重な機会になることを確信し、2012年12月まで展示を行う予定です。

大学図書館イメージキャラクター「よむりす」デビュー!!

2011年6月にデビューした「よむりす」を皆さんもうご存知ですか？
利用者と図書館を繋ぐ架け橋となることを目指している「よむりす」のプロフィールをご紹介します。



また、よむりすが登場するポスターが３種類完成しました。第１弾は「よむりす」の誕生と合わせた「よむりす」PR、第２弾は図書館オンライン教材「RAIL」、第３弾は「レファレンスサービス」をテーマにしています。図書館内や学部事務室に掲出していますので、ぜひご覧ください。

「よむりす」のことをもっと詳しく知りたい方は図書館ホームページをご覧下さい。

http://www.ritsumei.ac.jp/acd/mr/lib/yomurisu/

RITSUMEIKAN

立命館大学 図書館だより — Library Navigator — Vol.112 2011年11月
発行：立命館大学 図書館サービス課　〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
Tel：075-465-8217　Fax：075-465-8252　http://www.ritsumei.ac.jp/acd/mr/lib/index.html